

〔野菜〕

1. 概況

春の暖かい空気の流れ込みと寒気の南下の繰り返しと梅雨明け後の最高気温が 35℃を越すような猛暑は、平成 22 年の野菜作りに大きな影響を与え、特に、高・低温による生育抑制、高温による花芽分化遅延や品質低下が認められた。また、沖縄では台風 11 号によりパイプハウスや露地野菜が被害を受けた。野菜ごとの概況を以下に記す。

2. 果菜類

1) イチゴ

品種動向：促成栽培では、福岡は「あまおう」、佐賀・大分・宮崎は「さがほのか」、長崎は「さちのか」がそれぞれの主要品種である。「さがほのか」の作付けが増加傾向で、熊本でも「ひのしずく」とともに主要品種である。宮崎における四季成り品種は「みやざきなつはるか」。各県ともに新品種に対する期待は相変わらず大きい。

促成栽培（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎）：（平成 21 年度産）育苗期の炭疽病の発生は少なく、また、定植後の生育も順調であった。寒波で生育がやや遅れたものの、その後の天候回復で収量は平年並みであった。うどんこ病ならびにハダニが発生した。（平成 22 年度産）育苗期の高温により花芽分化が遅れたことから、定植が遅れ、さらに収穫始めも遅れた。また、定植後も高温で推移したため、第 1 次腋花房の出蕾時期が不揃いとなり、さらに厳寒期の低温寡日照による収穫が遅れた。炭疽病やうどんこ病、灰色かび病が発生した。

普通栽培（四季成り）：宮崎における四季成りイチゴの収穫は 6 月下旬から 11 月中旬までで、最盛期は 7 月下旬。出雷の連続性が保たれた結果、収穫の山谷が認められなかった。アザミウマおよびハダニの被害が認められた。

2) トマト

品種動向：品種は多様化傾向であり、また、葉かび病抵抗性品種の導入が増加している。「麗容」、「りんか 409」、「みそら 64」、「CF 桃太郎はるか」等の桃太郎系が主要品種。沖縄では「桃太郎」シリーズから「りんか 409」への移行がみられる。ミニトマトでは、「千果」。

促成栽培（福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、沖縄）：育苗期の高温による苗の生育不良、また、秋口の高温による青枯病発生が多かった。福岡や長崎では 12 月から 1 月の低温・日照不足の影響で生育が遅れ、1～2 月の出荷量は減となった。黄化葉巻病、灰色かび病、ハモグリバエの被害が大きかった。

普通および抑制栽培（熊本、大分、宮崎、沖縄）：熊本、宮崎では生育順調であったが、大分では定植後の低温と梅雨明け後の高温で減収となった。また、沖縄では多雨・低温で不作となった。黄化葉巻病、灰色かび病、すすカビ病、コナジラミ類の被害が多かった。

3) ナス

品種動向：福岡は「筑陽」の接木栽培（台木品種「トナシム」、「台太郎」、「トレロ」等）が行われている。佐賀は「黒錦 2 号」および「黒船」、長崎は「黒陽」、熊本は「ヒゴムラサキ」、大分は「筑陽」、沖縄は「長者」が、主要品種である。

促成栽培（福岡、佐賀、長崎、熊本、沖縄）：1～4 月は日照不足と気温変化が大きかったことにより、九州北部においては、成り込みと成り疲れの繰り返し、また、首細果や石ナスの増加となり、生産量は低下した。すすカビ病が多く発生した。

普通栽培（佐賀、熊本）：佐賀では、定植後の活着不良、細菌病等の発生による草勢の低下、落蕾・落花により収穫開始が遅れ、また、梅雨明け後も高温のため、十分な草勢回復はできず、収量は伸びなかった。

抑制栽培（福岡、沖縄）：福岡では、秋の天候に恵まれ、前年を上回る収穫量であったが、12 月中旬以降の冷え込みにより収穫量は低下した。総収量は前年並であった。沖縄は、多雨・低温により不作となった。

4) ピーマン

品種動向：促成栽培用の主要品種は、熊本では「ニューエース」、「かがやき」、「きらら」、宮崎では「京鈴」、沖縄では「ちぐさ」、「オールマイティ」である。佐賀の普通栽培では「さらら」、大分の雨

除けでは「さらら」、露地では「みおぎ G」が、それぞれ栽培されている。

促成栽培（熊本、宮崎、沖縄）：熊本、沖縄では作柄順調であったが、宮崎では、2月以降の日照量が少なく、側枝の伸びが悪いことに加え、果実の肥大が悪く、収量が少なかった。うどんこ病、ミナミキイロアザミウマが発生した。

普通栽培（佐賀、熊本、大分）：春の低温により生育の遅れが見られた。梅雨期の天候不順により着果不良などが発生。夏は猛暑により尻腐れが発生し、品質も低下した。青枯病およびタバコガが発生した。

抑制栽培（熊本、宮崎、沖縄）：熊本、宮崎の作柄は順調であった。沖縄では、多雨・低温のため不作となった。

5) キュウリ

品種動向：「ハイグリーン」、「極光 607」、「グリーンラックス」、「エクセレント節成 2 号」、「プロジェクト X」、「エクセレント 353」、「OH353」、「ステータス夏Ⅲ」など、県、産地により多様な品種が栽培されている。「極光 607」などの褐斑病抵抗性品種の導入が進んできた。

促成栽培（福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、沖縄）：熊本、宮崎、沖縄では作柄順調であったが、九州北部では、8～9月の育苗期の高温、11月以降の急な冷え込み、12月末からの低温と生育環境の変化が厳しく、特に厳寒期は草勢の低下がみられ、年明け後の出荷は急減した。べと病、褐斑病、黄化えそ病、退緑黄化病、ネコブセンチュウが発生した。紫外線カットフィルム、天敵（スワルスキーカブリダニ）の導入が進んだ。

普通栽培（熊本）および抑制栽培（福岡、佐賀、熊本、宮崎、沖縄）：熊本、宮崎では平年並以上と作柄は順調であった。福岡では8月～9月中旬の高温の影響により9月の出荷量が減少した。沖縄では、多雨・低温のため不作となった。なお、佐賀では7・8月定植から9月定植への変更が増加した。べと病、アザミウマ類が発生した。

6) スイカ

品種動向：主要品種は、「春のだんらん」、「祭りばやし 777」、「富士光 TR」、「味きらら」、「マダーボール」、「ひとりじめ」などの小玉スイカの作付け面積増加。

促成栽培（熊本、沖縄）・半促成栽培（長崎）・普通栽培（長崎、熊本）・抑制栽培（熊本・沖縄）：概ね、作柄は順調であったものの、熊本ではやや小玉化した。沖縄では灰白色斑紋病、ミナミキイロアザミウマの発生がみられた。沖縄では、栽培面積が減少した。

7) メロン

品種動向：「アンデス」、「クインシー」、「肥後グリーン」、「アールスセイヌ秋冬系」、「ベネチア秋冬系」、「アムス」等の品種が、また、宮崎の抑制栽培には「アールス雅秋冬系」が用いられている。品種の変動は小。

促成栽培（熊本、宮崎、沖縄）および半促成栽培（長崎）：概ね順調であったが、宮崎において、2月以降の日照量が少なく、糖度不足のため、従来の収穫日より、約10日収穫期を遅らせた農家が多かった。そのため、一部に軟化玉が発生した。また、アザミウマ、コナジラミ類の発生がみられた。

普通栽培（熊本）および抑制栽培（熊本、宮崎）：生育順調であり、果実肥大・品質ともに良好であった。退緑黄化病、軟腐病の被害が認められた。

8) カボチャ

品種動向：主要品種は、「えびす」、「味平」、「ニュー黒皮」、「くりゆたか」、「くりこし 2 号」で、沖縄では「くりゆたか」が増加した。

促成・半促成栽培および普通栽培：熊本、沖縄での作柄は概ね順調であったが、長崎では春先の寒気・強風により、やや生育遅延がみられた。

抑制栽培：熊本では夏秋期の高温により生育後半の草勢が低下し、一方、沖縄では台風の襲来や交配期の低温で着果が悪く、作柄は不良であった。うどんこ病およびズッキーニ黄化モザイク病による被害が認められた。

9) ニガウリ

品種動向：「えらぶ」（長崎・熊本・大分）、「宮崎つやみどり」（宮崎）、「群星」・「汐風」（沖縄）が栽培されている。品種の変動は小さい。

促成・半促成栽培（熊本、宮崎、沖縄）および早熟栽培（長崎）：2月の寡日照により流れ果の発生が認められたものの、概ね作柄は平年並み以上と良好であった。うどんこ病、つる割病、アブラムシが発生した。

普通栽培および抑制栽培：熊本の普通・抑制栽培では作柄は良好であったが、沖縄の抑制栽培では、冬季の低温で着果不良となり著しく減収した。

1 0) サヤインゲン（長崎、熊本、沖縄）

品種は、「サーベル」、「ステイヤー」、「ベストクroppキセラ」、「サマーキセラ」、「ケンタッキーブルー」。概ね作柄は順調であったが、沖縄の抑制栽培では低温の影響で着莢不良となり不作であった。また、菌核病、マメハモグリバエが発生した。

1 1) ソラマメ（長崎、熊本）

品種は、「陵西一寸」、「唐比の春」、「ハウス陵西」。長崎では冬季の低温で生育遅延傾向が見られたが、熊本では作柄順調であった。

1 2) エンドウ（長崎）

品種は、「紀州うすい」、「サラダスナップ」で、播種後、夏季の高温により一部生育不良が、また、冬季の低温によりやや生育が遅延した。

1 3) オクラ（熊本、沖縄）

品種は、「ブルースカイ」、「フィンガーファイブ」。熊本の普通栽培では作柄順調であったが、沖縄では早熟・抑制栽培ともに不作となった。

3. 葉根菜類

1) アスパラガス（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分）

品種は、「ウエルカム」、「スーパーウエルカム」。春芽は、気象条件に恵まれたため、収量・太芽比率ともに良好であった。夏芽は、5月中下旬の曇雨天による生育遅延、梅雨明け以降の猛暑による商品化率の低下等により、収量は低下した。斑点性病害、褐斑病、ハダニ、アザミウマ、コナジラミ、ヨトウムシの被害が多かった。

2) ネギ

(1) 小ネギ（福岡、佐賀、熊本、大分）

品種動向：「鴨頭」、「冬彦」、「冬作」、「FDH」、「若香ゴールド」、「若香」、「雷山」他を、季節に応じて使い分けて周年栽培している。「鴨頭」、「夏彦」の減少がみられる。高温期の収量・品質の良好な品種が増加。

冬から春にかけては「寒やけ」や生育遅延、夏は猛暑による発芽及び生育不良ならびに葉先枯れが多発した。大分では品種転換により、出荷量が増加した。虫害抑制のため、UV カットフィルムの普及が拡大中。ネギハモグリバエの発生は認められるも、例年より減少した（佐賀）。アザミウマの発生が認められた（大分）。

(2) ネギ（熊本、大分、沖縄）

主要品種は、「龍翔」、「関羽」、「ホワイトスター」、「冬扇」、「長悦」、「夏場所」「黒泉夏用」、「ジャワ夏ネギ」など。大分の春まき栽培では、4月下旬の寒波により若干の生育遅れがみられ、収量が若干減少した。また、夏期の高温により年内出荷分の収量が減少した。熊本、沖縄での作柄は順調であった。

3) タマネギ（佐賀、長崎、熊本、大分、沖縄）

品種動向：「貴錦」、「レクスター1号」、「七宝早生7号」、「浜笑」、「F150」、「T456」等が栽培されている。

九州北部における極早生・早生タイプでは、3月の低温・曇天等により、生育遅延ならびに葉先枯れが認められ、小玉化し、収量は減少した。中晩生タイプでは収量は平年並み（佐賀）。熊本、沖縄では作柄順調であった。沖縄ではセット球を用いた秋まき栽培が増加している。

4) レタス（佐賀、長崎、福岡、熊本、大分、沖縄）

品種動向：「サウザー」、「ウイザード」、「ステディ」、「アストラル」、「マイヤ」、「シルル」、「JT29」、「冬シスコ」、「プレジデント」、「グリーンストーン」他、多数の品種が栽培され、かつ、品種の

動きも速い。

夏まき・秋まき栽培：佐賀、長崎、熊本における年内どりは作柄良好であったが、年明けは低温日照不足で生育遅延も認められた。沖縄では多雨のため不作であった。オオタバコガの被害が認められた。

冬まき・春まき栽培：沖縄での冬まき栽培は作付け期の天候不良で栽培面積が減少した上に、低温で生育不良であった。一方、佐賀の準高冷地での春まき栽培の生育は順調であった。

5) ハクサイ（長崎、熊本、大分）

品種は、「ひろ丸」、「黄ごころ 85」、「大福 75」、「黄久娘」他で、品種変動は早い。作柄は順調であった。

6) キャベツ（佐賀、熊本、大分、沖縄）

品種動向：「いろどり」、「松波」、「彩里」、「おきな」、「はやどり」、「アーリーボール」、「秋徳」などで、大きな動きはない。

夏まき栽培：佐賀では夏季の高温、秋の乾燥、冬季の低温で生育不良であり、オオタバコガの発生が認められた。熊本では作柄順調であった。

秋まき・冬まき栽培および春まき栽培：沖縄の秋まき栽培は多雨のため不作であった。一方、沖縄の冬まき栽培および熊本の春まき栽培（高原）は、作柄良好であった。

7) ブロッコリー（福岡、長崎、熊本、大分、沖縄）

品種動向：「ピクセル」、「グランドーム」、「彩麟」、「エンデバー」、「しき緑 96 号」、「沢ゆたか」、「緑帝」、「キャッスル」など多様な品種が栽培されているが、品種の動きとしては小さい。

夏まき栽培：福岡、長崎では、年内はほぼ順調に推移したが、年末からの寒気により生育抑制ならびにアントシアン着色による品質低下が認められた。福岡ではヒヨドリの食害が早期（1月）から目立った。また、根こぶ病が拡大した。熊本では作柄順調であった。

秋まき栽培ならびに春まき栽培：沖縄における秋まき栽培および熊本の春まき栽培（高原）は、作柄良好であった。

8) ダイコン（長崎、熊本、大分、沖縄）

品種動向：主要な品種は「福誉」、「役者大門」、「夏つかさ」、「天宝」、「夏つかさ」、「秋日和」、「耐病総太り」、「役者奉行」で、品種の変動はやや早い。

秋まき栽培：長崎、熊本の年内どりは生育良好で、収穫前倒しとなった。年明けは低温日照不足で生育遅延した。沖縄では多雨のため不作であった。

冬まき栽培：熊本では作柄順調であったが、沖縄では低温のため生育不良であった。

春まき栽培：熊本の高原における春まき栽培は、作柄良好であった。

9) ニンジン（長崎、熊本、大分、沖縄）

品種動向：主要品種は「向陽 2 号」、「ベータリッチ」、「TE30」で、品種の変動は小さい。

夏まき栽培：長崎、熊本における年内どりは生育良好で、収穫前倒しとなった。

秋まき栽培および冬まき栽培：沖縄の秋まき栽培は多雨のため不作であった。熊本の冬まき栽培は作柄良好であった。

10) ゴボウ(福岡)

品種は「渡辺早生」。9・10 月まき 1~3 月どり栽培では作柄は平年並みであった。11 月まき 4~5 月どりでは白絹病、黒あざ症が多発した。

11) バレイショ

品種は、「ニシユタカ」、「メーカーイン」、「デジマ」。

春作（佐賀、熊本）：佐賀では低温の溜め萌芽が遅れたが、熊本では作柄順調であった。

秋作（佐賀、長崎、熊本、沖縄）：定植時期の高温で作付けの遅れ、種芋の腐敗が多発するも、作柄は良好であった。沖縄では、多雨のため、不作となった。長崎では青枯病、そうか病、アブラムシが、沖縄では疫病の被害が発生した。

12) サツマイモ（大分）

高糖度系の品種に変化している。品種は、「ベニハルカ」、「高系 14 号」、「土佐紅」。

（九州沖縄農業研究センター暖地野菜研究調整監 坂田好輝）